

令和5年度 兵庫県立川西北陵高等学校 学校評価

1 スクール・ミッション

「克己 協調 創造」の理念のもと、己に打ち克つ厳しさと、異なる価値観や立場の他者と協力し調和する力や、未来を創造する力を備え、自らの志を実現しようと努力し社会に貢献できる人材を育成する。

2 スクール・ポリシー（三つの方針）

- 育成をめざす資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）
- ① 生活訓「礼を正し、場を清め、時を守る」に基づき、状況を判断し行動できる力を育成します。
 - ② 多様性を尊重して他者と協働し、社会の変化に柔軟に対応しながら、未来を切り拓いていく力を育成します。
 - ③ グローバルな視点で、地域の課題解決に取り組みながら社会貢献できる力を育成します。
 - ④ 自分の未来を創造し、自己実現できるように職業観や進路意識を育成します。
 - ⑤ 自分の考えや思いを他者に伝えるための表現力を育成します。
- 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）
- ① 学年制普通科の高校として、生徒一人ひとりの学習や進路等の目標の実現に応えることができるよう、共通の教科・科目を中心とした教育課程を編成しています。
 - ② すべての教科において、主体的・協働的な学び、思考力・判断力・表現力の育成を重視します。
 - ③ 基礎力の定着及び応用力の伸張を図るため、「少人数授業」等のきめ細かな学習指導を行います。
 - ④ ICT 機器を積極的に活用するなどして、主体的・対話的で深い学びと探究的な学習を推進します。
 - ⑤ 生徒一人ひとりの個性を伸ばし、興味関心に対応した多様な進路実現を支援します。
- 入学者の受け入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）
- ① 学校生活全般に積極的に取り組み、自らの目標や進路の実現に意欲のある生徒を募集します。
 - ② グローバル社会や地域社会で貢献、活躍したいと考えている生徒を募集します。
 - ③ 礼儀やマナーを大切に、思いやりの心をもって他者を理解し、協働することに意欲がある生徒を募集します。

4 総合的な関係者評価

- 大学も高校と同様、コロナの時期を経てオンラインが普及しているが、負の側面も出てきている。対面に戻すことで生徒が元気になってきた。
- 川西北陵高校の先生が生徒のために尽力している内容がよくわかる。ぜひ外部に向けて発信してほしい。
- 授業アンケートに関して、各教員が取り組んでいる授業改善について生徒に聞いてみるのも良い。また、教員自身が主体的に取り組んでいるかを考えてみることも必要ではないか。

3 自己評価

評価項目	主な取組	達成状況		取組状況・改善方針					
		取組	総合						
(1) 自立して未来に挑戦する態度の育成	ア キャリア力の育成	①地域と連携した職業人インタビュー	B	B	○1年生から、20年後のキャリアイメージをもてるよう、多様な職業や職種の知識を広げ、理解を深める取組を行った。公務員希望者へのインターンシップを行った。				
		②キャリアプランを考える進路指導	B						
		③大学・専門学校等の体験講習	B						
		④進路について考える講演会	A						
	イ グローバル力の育成	①地域のコミュニティとの協働学習	B	C		○国際的視野を広げる「届けよう、服のチカラプロジェクト」を行った。 ○オーストラリア ケアンズ語学研修を8月12日～8月20日で行った。			
		②世界に視野を広げる講演会	C						
		③大阪大学留学生とのWEB交流	C						
	ウ 探究と表現型の活動	①コミュニケーション力を育む体験活動	B	B			○探究と表現型では、1年生では表現方法の基本と国際理解について学び、2年生ではTED×Hokuryo・校外活動を行った。生徒たちは世界に向けて視野を広げ、地域の課題やコミュニケーションの重要性について理解を深めた様子であった。		
		②JICAと連携した異文化理解	B						
		③日本の文化等を発信する英語発表	B						
		④地域課題の解決に取り組む体験活動	B						
		⑤学びの成果を発信する発表会	B						
	(2) 「生きる力」を育む教育の推進	(7) 知識・技能の習得	①習熟度別少人数授業(数・英)	A				B	○朝のSHRや授業中の小テスト、週末課題等を通して、日々の学習習慣と基礎学力の定着を目指すとともに、長期休業中の課題においてそれまでに学んだ内容の振り返りを行った。 ○定期考査を計画的に取り組みせ、学習意欲を高め、模擬試験も同様に模擬試験を受ける意義について指導を行った。 ○定期考査や模擬試験を活用した振り返り学習を通して弱点を補強し、PDCAサイクルの確立を目指す。
			②SHR(朝礼)での小テスト(国・英)	A					
			③週末の家庭学習課題(国・数・英)	B					
④成績不振者への面談・補充			B						
⑤長期休業中の補習(国・社・数・理・英)			B						
⑥検定試験の学校受験(国・英)			B						
(4) 思考力・判断力・表現力等の育成		①授業内容の精選と発展的内容の取入れ	B	B	○1人1台端末を導入する学年が増え、多くの授業で端末を活用するようになった。端末やGoogle Classroom、MetaMoJi Classroomなどの授業支援アプリやデジタル採点などの活用がより充実した。				
		②主体的・対話的で深い学び(全教科)	B						
		③言語活動や表現力を重視した総合学習	B						
(5) 学びに向かう力・人間性等の涵養		①評価規準・シラバスの公表	A	A		○観点別評価の運用と総括について、見直しと改善をしたことにより評価の方法に新たな試みが各教科で見られた。各科目の指導と評価の計画を作成することで、計画的に授業を行い、評価の方法を各教科で検討し改善していく運用ができた。			
		②生徒による家庭学習の記録	C						
		③生徒による授業評価(全教科・全授業)	A						
(2) 「生きる力」を育む教育の推進		(7) 克己心・協調性・創造力の育成	①校訓・生活訓に基づく人間教育	B			B	○学校行事においては、今年度より文化発表会をHOKIRYO Festaと改名し、より生徒の自発的参加を促す行事としてスタートした。コロナ禍では様々な制限があった中での開催で、毎年内容が変化していたが、今後は生徒会を中心とした生徒主体の行事として伝統を築いていきたいと思う。	
			②年間指導計画を立てたHR活動	B					
			③生徒会が主導する文化祭	B					
	④自主的・自発的な部活動		B						
	⑤芸術文化に親しむ鑑賞会		A						
	(4) 社会性の育成	①学校いじめ基本方針の改定・実施	A	A			○数年前からの目標である「時を守る」を今年度も重点的に指導した。始業前遅刻件数は例年とほぼ同数であった。時間の管理ができるよう指導していきたい。学年により時差登校をお願いしているが、おおむね各学年の登校時間を守って登校してくれている。ほとんどの生徒は趣旨を理解してくれており、今後も引き続き協力をお願いしていきたい。登下校のマナーについても機会を見ながら指導しているが、例年通り苦情も少なく、良好な状態が保たれていると思われる。今後も事故発生0を目指し、さらなる交通ルール・マナーの向上を期待したい。		
		②情報7i等、新たな課題に係る講演会	A						
		③認知症サポーター講習会	B						
		④清掃や地域の活動への参加	A						
		⑤マニュアルに基づく危機管理	B						
		⑥防災教育	B						
	(7) 体力の育成	①種目選択別少人数授業	B	B	○修学旅行をはじめ、球技大会や学年レクリエーション等の事前準備、当日の活動や運営に加え、学年委員会活動を生徒主体で実施することによって、社会に貢献できるリーダーの養成とともに協働意識の定着を目指す。				
		②生徒が主導する体育大会等	B						
		③スキー実習等を伴う修学旅行	B						
	(4) 健康の増進	①計画的な健康保持・増進	B	B		○コロナが5類となり、換気対策を中心に予防対策の在り方について関係部署と連携・協力し取り組んだ。 ○保健室来室者が抱えている健康課題や発達課題は多様化し、予測・回復する過程が未経験であると感じた。養護教諭による相談活動、キャンパスカウンセラーによる教育相談、そして学年・担任との協働活動を行った。			
②キャンパス・カウンセラーとの協働		A							
③警察と連携した薬物乱用防止、安全指導		B							
④WBG Tに基づく熱中症対策		A							
⑤生徒(保健委員会)による啓発活動		B							
(3) 子供たちの学びを支える仕組み	ア PTAの参画と協働	①国際交流等、学校行事への支援・協力	B	B				○月1回のPTA役員会を開催し、PTAが学校の方向性を理解するとともに、主体的な情報発信によって学校を支援し、地域の理解を促進した。 ○ミマモルメによる配信で、各家庭との連携を図った。	
		②消毒等、教育活動への支援・協力	B						
		③広報誌『北陵』による情報発信	B						
		④学年通信、PTAと学校の情報共有	B						
	イ 地域への情報の発信	①生徒が主導するオープン・ハイス쿨	B	B			○オープンハイス쿨では、生徒が主体となって学校説明を行った。さらに、特色型代表生徒が、授業で行った発表を演じた。その甲斐もあり、ほぼ100%の方が学校についてよく理解できたアンケートに回答していただいた。		
		②校内外研究授業	B						
		③学校評議員会の定期開催(年2回)	B						
		④分かりやすい学校評価の公表	B						
	ウ 学校の組織力・教員の資質能力の向上	①長期欠席等における学習支援	A	A	○保護者、中学校教員などに向けて授業風景の公開を行えた。期間中は多数の保護者が来校した。 ○次年度に向けては、全校生徒が新教育課程に移行される年になるためさらにICTの活用を考えていく必要がある。授業だけでなく利用の場を広げる取り組みが必要である。				
		②ICT機器の活用研修	A						
		③生徒理解を深める校内研修	A						
		④人権意識を高める校内研修会	A						
		⑤生徒指導便り、学年通信等の配布	B						

5 自己評価への関係者評価

評価項目の評価

- どのような生徒を育てたいのか、ゴールから考える逆向き設計も必要である。
- 先輩の姿を見ることが生徒にとってはインパクトが強い。
- 中学の部活動は地域移行に向かっている。部活動は社会性を育てる面があるので、地域移行で縦の関係が薄れてくるのが危惧される。
- 大学でも端末にタブレットが良いのか、ノートパソコンが良いのか検討している状況である。
- 欠席に関して、コロナを経験して保護者の意識が変わった。体調不良を安易に休ませる面があったように感じる。

A : 3.4以上
B : 3.0~3.3
C : 2.9